

平成22年度 北陸技術士懇談会

第1回 技術講演会報告

北陸技術士懇談会の平成22年度第1回技術研修会が、平成22年12月4日（土）に金沢勤労者プラザにて行なわれました。

通常であれば11月の開催なのですが、産学官の合同セミナーが11月にありましたので、今回は12月の開催となっています。

今回は事前に若手による発表として40歳未満の講師の選出を各県にお願いしました。このためかどうかわかりませんが、技術士でない方が2名講演されました。後から伺った話では、2番目に講演された元平講師は現在技術士に挑戦中とのことで今後会員として活躍されるのが楽しみです。

■屋敷会長の挨拶

最近の子供達の理科離れを話題とされました。理科に興味を持ってもらうため、コンビーフの缶でアーチ橋をつくり子供を乗らす実験の話です。

アーチ構造が強いことは、技術者であれば知っています。でも、知らない子供達は当然怖がりです。恐る恐る橋に乗り、最後は大人も乗ったそうです。

体験に勝る勉強法はありません。子供たちは、きっと理科に興味をわいた事と思います。



■技術研修会内容

①講演1：「多種多様な小浜市の文化遺産」

松澤 那々子 講師（小浜市役所教育委員会 文化遺産活用課 主事 学芸員／福井県）

小浜の文化遺産についての講演でした。小浜には、多種多様な文化遺産が多く、登録文化財は232件におよぶとのこと。特に、仏像が多いそうです。



珍しいものとして、若狭神宮寺が紹介されました。仏さまと神さまが同居している寺です。寺に注連（しめ）縄があるのを初めてみました。



（福井観光 Web より）

若狭小浜は、大陸との交流が盛んであったと考えられ、これらの証拠となる資料が多数存在するようです。

平成23年のNHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」では、主人公・お江（秀忠の正室）の姉・お初が小浜ゆかりの人物であるとのこと。

ぜひ、覚えておいてもらいたいと、講師の松澤さんが宣伝しておられました。

②講演2：「電気コミュニティバスの開発と実証実験」

元平 茂 講師（北陸電力株式会社 技術開発研究所技術チーム 工学博士／富山）

北陸電力株による電気コミュニティバスの開発とその実証運行試験による検証結果の話です。

北陸電力株が電気バスの開発をするというのは、やや意外な感じを受けます。しかし、企業としてのCO₂排出削減や今後の電気自動車市場の拡大を考えた場合、このような開発も当然必要だと思いました。

二次電池として、リチウム（Li）が何故注目されたかという話がありました。リチウムは、単位

重量あたりの電気容量が大きく、かつ、電圧が高いそうです。周期表を思い出してみれば、リチウムは元素番号3で、最も軽い金属です。メモリー効果も小さく、いいこと尽くめのような電池ですが、過充電・過放電は危険なようです。充電100%にならないよう97%程度にセーブされているそうです。



電気コミュニティバスは、2009年より富山市において実証運行試験が行なわれています。検証の結果、ディーゼルコミュニティバスと比較して、CO2排出量で年間約40%の削減、ランニングコスト（燃費）で年間約50%削減が見込めるとのことです。

この実験は2010年も富山市内で行なわれています。一度乗ってみたいかがでしょうか。

③講演3：「自然災害への対応～防災への取り組み事例について～」

亀田 満 講師（㈱国土開発センター 技術士 建設部門 河川、砂防及び海岸・海洋／石川）

自然災害の発生状況と、災害に対するハード・ソフト対策についての話がありました。

近年、異常気象の発生が多いにも関わらず、以前、対策工事の整備率が低い現状が述べられました。



公共事業費も年々削減され、ハード対策の限界が見えてきています。それを補うソフト対策が益々重要となってきています。

しかし、ソフト対策は計画側が意図していることが、受手側（住民）に理解されているかが問題です。また、理解しただけでは不十分で、実行できるかが問題です。これらをいかに解決するかが重要です。

懇談会の講習会参加者は建設部門が多く、本講演のテーマは、つつこみ易い話題といえます。そのためか、講演者が返答しづらい辛辣な？質問が飛び交いました。

昨今の公共事業を悪玉に挙げる風潮に、みなさんやり切れない思いをしているのでしょうか。という、私もその一人です。

私は、公共事業は福祉だと思っています。また、公共事業が国の財政赤字の主原因とも思いません。そう思っている人は、公共事業を悪玉にしたい人たちの数字のマジックに騙されているのです。

マスコミ・世論に惑わされず、正確なデータから正しい判断をするのも、技術士の重要な資質です。

■交流会

研修会の後に講師を交え交流会も開催いただきましたが、こちらの方は42名の参加がありました。久しぶりに若い人の参加が多く、にぎやかな感じがしました。



その為か、料理のなくなるスピードが速く、1時間も持たなかったようです。十分食べられなかった方、申し訳ありませんでした。

講師を交え、和やかに会話が弾み、楽しい時間を過ごしました。

文責：事業委員 桜井幹郎（富山）